○**かい-くれ**（副）皆暮

〔皆紅（ミナクレナキ）、皆金色（カイコンジキ）ナドト同趣ノ語ナリ、くれハ、暗（クラ）クシテ見エヌ意〕カイシキ。スベテ。一切。

平家女護島（享保、近松作）二「かいくれニ行方ナク、二度影モ見ル事ナシ」「かいくれ見エヌ」

【参照辞典】『大言海』第一巻　冨山房　昭和7年10月28日発行　p.555

○**かい-志き**（副）皆色／皆式

〔一皆一色ノ略カト云フ〕ミナ。悉ク。スベテ。カイクレ。カイモク。

「皆色見エズ」皆式無シ」

【参照辞典】『大言海』第一巻　冨山房　昭和7年10月28日発行　p.557

○**かい-くれ**【掻暮】

（動詞「かきくれる（掻暗）の連用形から）

①〖名〗すっかり日が暮れること。

＊俳諧・沙金袋(1657)興「茶杓竹かいくれ日くれか三ヶの月〈光正〉」

＊俳諧・蓑虫菴小集（1824）「うもれてはてぬ身を支離（かたは）にて〈麋塒〉通夜堂のかいくれ花をのぞくころ〈一晶〉」

②〖副〗（打消の語を伴って用いる。「に」を伴うこともある）

全くわからない、また、見えないさまにいう。まるっきり。さっぱり。かいもく。

＊雑兵物語（1683頃）下「鑓蒙はどっちへつんぬけたかかいくれ見へない」

＊浮世草子・懐硯(1687)一・三「娘はかいくれに見へずなりぬ母又是をなげき」

＊黄表紙・四天王大通仕立（1782）「其の晩から娘がかいくれ見えませぬ」

＊歌舞伎・紋尽五人男（1825）二幕「出家を留めようと追ひかけては見たが、皆くれに行くへが知れず」

＊湯島詣（1899）〈泉鏡花〉二一「覚えた番地を差配にまでかかって尋ねたが、皆（カイ）くれ分らず」

［補注］

暗くなって見えないところから行方がわからない意味の述語にかかる事が多い。

「お染久松色読販 - 中幕」に打消の伴わない「昨日こなたの跡をかいくれ尋（たづね）たは、嫁菜の苞（つと）の」の例が見られるが、「かいくれ」に「全くわからない」の打消の意を含ませた表現と思われる。

［方言］

①〔名〕夕暮れ。愛媛県今治市 840

◇かいぐれ　兵庫県加古郡 664

②〔副〕（打消の語を伴って用いる）全く。一向。全然。さっぱり。

仙台「なんぼたづねてもかへくれ見へなへ」

山形県東置賜郡 139

富山県下新川郡 391

富山市近在 392

長野県上伊那郡 488

岐阜県土岐郡 498

滋賀県 606　609　612

和歌山県 054　690

◇かいぐれ　三重県志摩郡 585

◇がいくれ　宮城県仙台市 123

◇かいぐり　岩手県気仙郡 100

◇がいぐり　宮城県登米郡 115

◇がいくり　宮城県玉造郡 116

◇かいくり　福井県吉田郡・丹生郡 427

◇かいくれえ　長野県諏訪 481

◇かいくつ　岐阜県益田郡 498

◇がいくれさんぼお〔～三宝〕宮城県仙台市「たまに遊びに出すと、がいくれ三宝帰ることを知らぬ」123

◇かいぐりさんぼ　岩手県気仙郡「けぁぐりさんぼそれからこなかった」100

【参照辞典】『日本国語大辞典』第二版 第三巻　小学館　2001 年 3 月 20 日　第 2 版第 3 巻第 1 刷　p.178